

第16回 豊川流域圏自然再生検討会

第15回 豊川流域圏自然再生検討会 主な意見と対応

重要種に係わる情報等については、原則非公開とさせていただきます

令和5年10月4日

国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所

第15回 豊川流域圏自然再生検討会（R4.9.30）

自然再生事業モニタリング調査結果に対する主な意見と対応（1）

項目	主な意見	対応状況
ヨシ原再生	<p>・ 調査項目の「景観」について評価を行うこと。事業評価におけるアンケート調査において住民の評価が向上しているか確認すること。</p>	<p>・ 事業評価のアンケート調査結果から、景観にかかる意見を整理した。（資料3 P.7）</p>
	<p>・ 本川と放水路のテリトリー数の違いについて、ヨシ原の形状と関連した考察があるとよい。</p>	<p>・ 本川と放水路において、オオヨシキリの繁殖箇所となるヨシ原の形状について考察した。（資料3 P.10）</p>
	<p>・ ヨシ原の形状がオオヨシキリの繁殖状況に影響している可能性も考えられる。</p>	
	<p>・ 鳥類の経年変化グラフについて、「第3工区」を除外して比較しているが、調査年数が蓄積されてきているため、全地点分のデータを示してもらいたい。平成31年度に追加した地点についても、経年変化を示してもらいたい。</p>	<p>・ 令和4年度の調査結果から、全地点のデータを用いた経年変化を整理し、事業効果を評価した。（資料3 P.11）</p>

自然再生事業モニタリング調査結果に対する主な意見と対応（2）

項目	主な意見	対応状況
干潟再生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本川と放水路側で粒径分布の差がみられているが、流速や流量配分、流砂量を把握しているか。中州の自然堤防の土砂は放水路から供給されているように見える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土砂動態を推測する手法について助言をいただきながら、調査内容を検討した。 (資料4 P.10) ・ 底質とアサリ・ハマグリの経年変化グラフを地点別に作成して、関係性を考察した。 (資料4 参考資料) ・ 近年魚類相の変動が指摘されているので、魚類調査は毎年継続することとし、出現種の状況を取りまとめた (資料4 P.16)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 干潟の土砂の入れ替わりについて、少しでも情報を得るような調査を考えた方がよい。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後土砂動態が変化して、河口の干潟形状や底質が変化することを漁業者は心配している。干潟の土砂由来や土砂収支を把握するための定量的な調査や評価を行った方がよい。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経年的な底質の変化に対するアサリやハマグリの生息状況の変化を、地点別、自然・施工干潟別に解析した方がよい。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海側で二枚貝等の餌が減ったので、アカエイやナルトビエイが川に上がっている可能性もある。干潟を利用する人にとっても危険なので出現状況に留意した方がよい。 	

自然再生事業モニタリング調査結果に対する主な意見と対応（3）

項目	主な意見	対応状況
アサリ 着底 稚貝 調査	<ul style="list-style-type: none"> 春先の着底稚貝の移動に関係している南向きの流れは、干潟地形によるものと思われる。干潟再生の施工で中州の堆積部を掘削すると、稚貝輸送の外力である流況が微妙に変化して、着底稚貝の移動も変化する可能性があるため、施工は慎重に行った方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 掘削箇所の施工計画は、地形変化の影響をモニタリングしながら段階的に進める予定とした。 (資料4 P.23)
	<ul style="list-style-type: none"> 河道部の汽水域は生まれたばかりのアサリが生息するために重要な生息環境であり、良好な餌料環境であると予測される。引き続き河道部の調査も継続することが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> 汽水域における着底稚貝と餌料環境の関係を把握するため、河道部2.0kまで調査を実施することとした。 (資料5 P.20)
	<ul style="list-style-type: none"> 豊川の窒素リンは20年前に比べて半減しており、漁業者は栄養塩が非常に少なくなっていることを危惧している。今後豊川の水質がどのように変化するのかも含めて議論してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 栄養塩の調査を実施し、プランクトンとの関係を解析、考察した。 (資料5 P.10～)
	<ul style="list-style-type: none"> サイズ別クロロフィルの分析結果と植物プランクトンの同定結果の関係を解析してもらいたい。アサリの卓越年級群ができる時は餌料環境が良い時という情報もあるので、餌料環境の内容についてももう少し解析できるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 餌料環境とアサリ着底稚貝の関係を解析、考察した。 (資料5 P.10～)